



地域安全ニュース

くらま

No.396
発行所
今治地区防犯協会
今治警察署
☎34-0110
FAX 31-7001

危険箇所を知る！ 地域安全マップ作成

乃万小学校児童と少年の犯罪被害を防止するため、自分自身が自らの行動範囲の危険箇所を犯罪に遭いやすい・遭いにくいという視点からチェックし、地域安全マップを作成しました。

作成することにより…

危険察知能力が向上するだけでなく、地域住民と接することでコミュニケーション能力を向上させ、また地域住民にも少年の被害防止への注意喚起にもなります。

- ◎ 平成21年6月12日～6月26日の毎週金曜日に実施
- ◎ 今治市立乃万小学校及び乃万校区内



① 事前学習(6月12日)

教諭と共同授業をし、マップを作成する意義やマップを作成するにあたっての注意を行った。

② フィールドマップ(6月19日)

実際に外に出て、事前学習で学んだ犯罪に遭いそうな危険な場所を、自分たちで、また地域住民へのインタビュー活動などを行い、探索した。



③ マップ作成・発表(6月26日)



ここは
行きがけに
深い溝がある
から夜歩かない。

白地図に写真やメモを貼付け、マップを完成させ、その後、「ここで見つけた危険な場所へは行かないようにします」などの感想を交え発表を行った。

防ごう!! ～山岳遭難事故～

昨年の県内の山岳遭難事故

	発生件数	遭難者	うち負傷者
年間	32件(+6)	34人(+7)	3人(+1)
7～8月	22件(-2)	22人(-2)	0人(-1)

※()は前年比 ※死者1名



年齢別	7～8月
90歳以上	1人
80～89歳	0人
70～79歳	5人
60～69歳	5人
60歳未満	11人

遭難している原因としては、体力不足やつまずき等があげられます。



十分な装備と日程で!

- 余裕のある日程と行動を心がけましょう。
- 出かける前に装備品の点検を確実にしましょう。

単独登山は危険と隣り合わせ!

- 単独登山での遭難の死亡率は、季節を問わず高くなっています。

体力にあった登山を!

- 自分やメンバーの体力、経験、技術に応じた登山をしましょう。体調が悪くなったら、引き返しましょう。

天気にご注意!

- 山の天気は変わりやすいもの、悪化すれば引き返す勇気を!



～自然災害から身を守るために～

平成13年の芸予地震、平成16年の台風の大雨による土砂災害などの被害状況は記憶に新しいと思います。私たちは様々な自然災害がいつ発生しても不思議でない国に住んでいることを自覚し、自分や家族の身を守るために、日ごろから関心を持ち、万が一に備えましょう。

〇台風・大雨情報を入手

テレビ・ラジオ・インターネット・携帯電話の情報配信等により、正確な情報をいち早く入手して対策をとり、被害を最小限にとどめましょう。



気象庁は、本年4月下旬から台風の進路予報を3日先から5日先まで延長しています。

〇早めの安全対策を

〇危険な土地がどこなのか知る

豪雨に弱い土地は危険度も高くなるので、自治体の作成した防災マップ等を活用して、自分の家の周りがどのような土地なのか知っておきましょう。

防災マップは、今治市役所のホームページ防災対策課（下記のアドレス）にてご覧になれます。

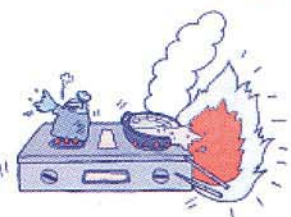


<http://www.city.imabari.ehime.jp/bousai/map/index.html>

〇地震による火災を防ぐためのポイント

地震時には、まず落ちついて行動しましょう。

- ・ 揺れている最中にコンロ等の火元に近づくのは危険です。揺れがおさまってから消しましょう。
- ・ 万一、火が出たら、火が小さい内に消火器やバケツなどで消しましょう。



非行防止キャンペーン を実施しました

平成21年7月11日(土)にフジグランにおいて、非行防止キャンペーンを実施しました。県警ミニコンサートが行われ、大盛況でした。ミニコンサートの合間にはボランティアの方々による少年の非行防止チラシやうちわ、風船の配布を行いました。また、まもる君も登場し子どもたちに大人気となっていました。



県警ミニコンサート♪



まもる君と握手



こころの芽

被害少年サポーター
日浅 正恵

『自分の弱さと向き合う力を育む』

生きている限り悩みは尽きません。悩みは生きている証拠ともいえます。私たちは多くの場合、誰かに話を聞いてもらうことで、悩みを乗り越えます。その人は、まるで自分のことのように悩みを真剣に聞いてくれます。だから、その人の前では、安心して自分をさらけ出すことができるのです。

子どもたちも、さまざまな悩みを抱え、胸を痛めています。子どもたちがその悩みに押しつぶされないために、家庭の中に、その悩みを受け止める素地があるでしょうか。

子どもの様子からキャッチし、子どもの顔を見ながら、話を聞いてあげましょう。最後まで口を挟まず、じっくり耳を傾けましょう。

幼いころから、不安なときしんどいときに、親や家族に寄り添ってもらえた経験が、子ども達に自分の弱さと向き合う力を育てていきます。